

ろんだん 佐賀



岩永 雅也さん

放送大学長

いわなが・まさや 1953年嬉野町生まれ。就学前に千葉転居。筑波大附属高一東京大卒一同大学院修了。大阪大、放送教育開発センターを経て2000年に放送大学教授、21年から放送大学長。専門は教育社会学。チョウ、馬、自転車、農作業など趣味は雑多。千葉市。

放送大学は、全国に50の学習センターを持ち約8万3千人の学生・院生が学ぶ日本最大の通信制大学である。今年で創設41年、本部のある千葉・幕張のお隣、浦安市の有名な某テーマパークとは同い年であるが、そちらが連日大にぎわいを見せているのに対し、幕張の本部キャンパスは常に閑散としている。他大学と比べても静かである。それは、面接授業以外の大半の授業が放送とオンラインで行われているため、学生がキャンパスにほとんど来ないという特殊性による。

放送大学の特殊性は、「早稲田」「佐賀」といった地名でも、「慶応」「大正」といった創設時期でもなく、教育手段のみを大学名としているところにも表れている。日本ではこうした

佐賀人と学び

佐賀の学習者一人との出会い

名称の大学は他にない。そのため、「放送のことを学ぶ学校？」とか「NHKの大学？」といった質問を受けたりするが、どちらも答えは「no」、正解は「教育手段として主に放送を用いる正規の四年制大学」である。一般の通学制総合大学と同様のカリキュラムに

う点で、「公開大学」としての性格もある。それにより、放送大学は国内最大規模の「生涯学習機関」としても認知されている。生涯学習と聞くと、いわゆるカルチャースクールのな学習を想起されるかもしれないが、教育のレベルは一般の大学同様またはそれ以上に高い

センター(佐賀市天神のアンセ4F)で担当した土曜2日間の面接授業の最初に名簿を読み上げて出席をとっていたとき、ある名前を見て愕然とした。幼少期に別離した有田の生母であった。休憩時間に話を聞くと、退職後70歳を過ぎてから、若い頃興味を持っていた

得した小学校教員の男性である。担任する子どもたちにとしたら効果的な理科の指導ができるかという素朴な問題意識から出発し、教育技術だけでなく認知心理学や気象学、物理学などの分野にも関心を広げて深く学び、体系的な学位論文を仕上げた。その論文は今

したがって、高度なレベルの講義や研究指導ゼミを提供している。学生だけでなく、大学院では修士、博士の学位も授与する「高等教育機関」である。

一方で、放送大学には、学部の入試がない、高校等の卒業資格があれば誰でもいつでもどこにいても入学でき、学費も非常に安いとい

め、学部でも所要の124単位を修得して卒業にまで至るのはなかなか難しい。まさに「入るは易く出るは難い」大学なのである。

その放送大学で、私はかつて一人の印象深い佐賀の学習者と出会った。その一人は、長年勤めた学校教員を定年退職した女性である。私が放送大学佐賀学習

た文学をまた勉強したくなつて、年を取ってからも学べる放送大学に入学したという。学ぶことそれ自体がとても楽しいと言い、かつて襦袢を替えた子の講義を熱心に聞く姿に、頭の下がる思いであった。

もう一人は、私のもとで修士論文と博士論文を最短期間で書き上げ、学位を取

に至っても参照数が多く、その分野での関心を集めている。学位取得は還暦近くになってからであったが、その後国立大学で後進の指導にもあたり、充実した生活を送っていると聞く。

佐賀の学習者…わずか2例ではあるが、私にとつては強烈な印象の二人であった。

